

みえんしす 51号



1P▶3P **特集** 特別展・第42回企画展
「ポケモン化石博物館」がはじまります



3P▶4P **移動展示**
『たんけん!はっけん!大台町』を
開催しました!



5P
考古資料を身近に感じていただくために



6P 2026年新春展示「三重のウマたち」
10年目のこぼれ話

「ポケモン化石博物館」がはじまります

MieMuでポケモンの展示がはじまります

令和8(2026)年1月17日(土)から4月5日(日)まで、MieMuではポケモン化石博物館を開催します。



人気ゲーム『ポケットモンスター』シリーズに登場するふしぎな生き物「ポケモン」には、カセキから復元されるポケモン(以下「カセキポケモン」と呼ぶ)がいくつか知られています。この展示は、「カセキポケモン」と私たちの世界で見つかる「恐竜などの化石・古生物」を見比べて、似ているところや異なっているところを発見し、古生物学について楽しく学んでいただくものです。

みどころとして、古生物と「カセキポケモン」のイラストから、似ているところ、違うところを探したり、「カセキポケモン」の実物大骨格想像模型が登場し、古生物の標本と比べたりすることができます。

コア展示について

コア展示では、「ポケモンの世界のカセキ研究」と「私たちの世界の化石研究」がどのように行われているかを学びます。

ポケモンの世界では、絶滅してしまった「古代ポケモン」が、各地で「カセキ」として発見されます。「カセキ博士」たちが研究を進め、現代の科学力によって復元されます。この展示では、古代から全く姿が変わらず、現代まで生き残っているポケモンなども含め、「カセキポケモン」とよんでいます。

私たちの世界では、さまざまな絶滅した「古生物」が、「化石」として発見され、「古生物学者」によって研究されています。古生物学者は、化石を観察・分析し、現代の生物と比較しながら、古生物がど



MieMuのオリジナル展示
MieMu古生物と「カセキポケモン」の比較
左：トリケラトプス骨格レプリカ
右：アンハンゲラ骨格レプリカ



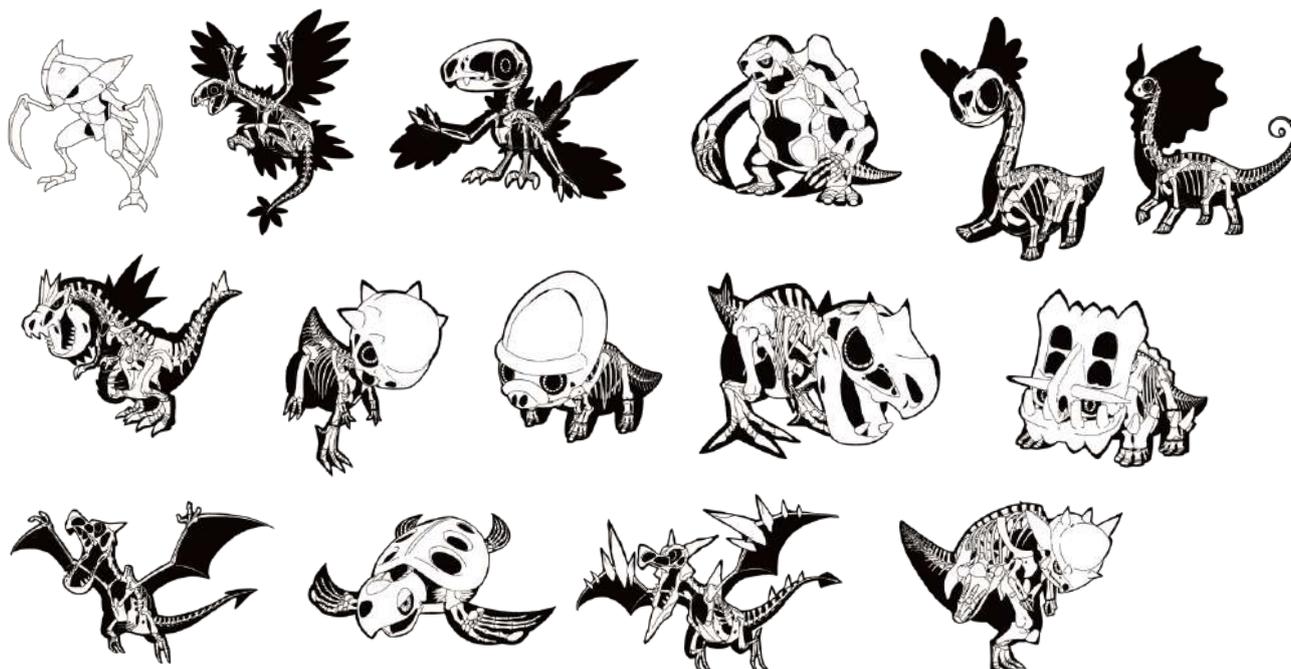
ぼうくんポケモン
ガチゴラスの骨格のイメージ



ぼうくんポケモン
ガチゴラス



獣脚類の恐竜
ティラノサウルス



いろいろな「カセキポケモン」の骨格図（「カセキポケモン」の骨格図は想像図です。）

のような生きものだったか調べます。

ここでは、「ポケモンの世界」のうずまきポケモン「オムナイト」、うずまきポケモン「オムスター」と「私たちの世界」のアンモナイトの化石を例に、研究方法を紹介します。展示の後半では、それぞれの世界におけるかせき研究のこれまでの歩みと、最新の研究成果を紹介し、かせき研究のこれからを考えていきます。「ポケモンの世界」では、ぼうくんポケモン「ガチゴラス」骨格想像模型、ようくんポケモン「チゴラス」骨格想像模型、「私たちの世界」では、ティラノサウルス頭骨レプリカを展示します。

比較展示について

比較展示では、カセキポケモンと古生物を比較し、似ている特徴や異なる特徴を観察します。「ポケモンの世界」のツンドラポケモン「アマルルガ」

骨格想像模型、シールドポケモン「トリデプス」骨格想像模型、「私たちの世界」の標本では、MieMuのオリジナル展示として、全長約7mのトリケラトプスや、翼を広げた幅が5mある翼竜のアンハングエラなどの骨格を展示します。

国内最後の展示となります！

これまで、MieMuを含めて15の博物館や美術館で巡回してきましたが、MieMuが、ついに国内最後の会場です。ぜひ、「ポケモン化石博物館」をお楽しみください。

中川 良平 古脊椎動物学

特に500万年前以降の哺乳類化石に興味を持っています。探検装備を駆使し、沖縄の島々にある洞窟を数百ヶ所めぐり、化石や動物骨を探した経験もあります。





令和8(2026)年1月17日(土)～4月5日(日)
9時～17時(最終入場16時30分まで)

休館日 毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)

主催 三重県総合博物館・国立科学博物館

企画協力/ポケモン展示品制作

株式会社ポケモン

総合監修 相場大佑

(公益財団法人 深田地質研究所)

協力 三笠市立博物館

群馬県立自然史博物館

豊橋市自然史博物館

島根県立三瓶自然館

近畿日本鉄道株式会社

後援 三重県博物館協会

© 2025 Pokémon. © 1995-2025 Nintendo/
Creatures Inc./GAME FREAK inc.

ポケットモンスター・ポケモン・Pokémonは任天堂・
クリーチャーズ・ゲームフリークの登録商標です。

※内容の詳細については
ポケモン化石博物館の
HPをご覧ください。



会場 三重県総合博物館 3階企画展示室

観覧料・観覧券・事前予約等について

- ・土日祝は「日付指定券」が必要です
- ・お得な前売り券は1月16日(金)まで販売

※観覧料・観覧券・事前
予約等についての詳細
についてはHPをご覧
ください。



移動展示

『たんけん！』

大台町に博物館の資料がやってきた！

移動展示『たんけん！はっけん！大台町』は、令和7(2025)年10月3日(金)から11月1日(土)までの計25日間、大台町B&G海洋センターの1部屋(6.4×7.3m・下写真)と廊下の一部を使用して開催し、773人の方にご観覧いただきました。



移動展示では、開催地にまつわる自然や歴史・文化に関する資料を展示しています。今回は、江戸時代の旅とその道具、ほ乳類、昆虫、コケ植物、お雑煮、魚類、旧石器時代の石器の順で展示しました。

大台町は熊野古道伊勢路が通ります。大台町の宮川を渡る「三瀬の渡し」の様子を描いた江戸時代の解説本の複製や、その当時の弁当箱などの道具を展示しました。また、北海道を名付けた松浦武四郎は、大台町の大台ヶ原を3度探検しており、彼が描いたその地図や探検記の複製を展示しました。その紀行文にはカモシカに出会ったと書かれており、カモシカの実物本剥製とともに、三重県最大級(93kg)の直立したツキノワグマの実物本剥製(下写真)を展示しました。

人気だったツキノワグマや宮川高校OBの注目を集めた昆虫標本

夕刊三重、中日新聞、松阪ケーブルテレビ、中京テレビに取材していただきましたが、記事やニュース映



はっけん！ 大台町』を開催しました！

像はいずれもクマ^お推しで、観覧者にもクマが人気でした。

大台町に2011年まで開校していた県立宮川高校の生物部が収集した当時の昆虫標本の展示では、それを観覧した宮川高校OBの方が、その標本が校長室にあったことを懐かしむ姿がありました。植物標本の展示では、ウキウキゴケ（右写真）の名前のおもしろさが人気を集めました。



地元の学校の子どもたちや教育委員会と協力してできた展示

令和7年の正月に大台町の小学校の児童に依頼し、自宅のお雑煮を写真撮影やスケッチしていただき、それらの写真や絵を展示しました（下写真）。その結果、各家庭のお雑煮は具沢山で、三重県では平均3.6種類のところ、大台町では4.4種類と具が多いことがわかりました。

東海地方屈指の規模である大台町の出張遺跡から出土したナイフ形石器や礫を、共催者の大台町教育委員会が展示しました。



生態展示も行いました

廊下には、生きた動物を飼育展示し、日本最小で500円玉の重さしかないカヤネズミ（右上写真）

や、アジメドジョウ、ウグイなど宮川に生息する淡水魚を紹介しました。動く動物は未就学児をはじめ皆さんに人気がありました。



これからも県内各地の魅力発信を続けます

観覧いただいた皆様には、新たな気づきを得て、大台町という地域を益々好きになっていただけたらうれしいです。三重県および大台町をはじめ県内各地域の魅力をこれからも発信していけたらと思います。



北村 淳一

動物生態学

主に淡水魚類のタナゴ亜科魚類の多種が共存する仕組みなどを研究しています。



移動展示の会場の様子を動画でご覧いただけます

展示室を歩いてみよう

「移動展示 たんけん！はっけん！大台町」



「発掘された日本列島2025」とは

MieMuの第41回企画展として10月18日(土)から12月14日(日)まで開催された全国巡回展「発掘された日本列島2025」は、近年の調査で特に注目された遺跡や出土した遺物を紹介する文化庁の企画です。また同時開催の地域展示もこの企画の醍醐味で、開催各館がそれぞれテーマを設け、考古資料で地域の歴史を紹介します。MieMuでは「王権東へ 伊賀の古墳時代」と題し、伊賀国を「郡」をベースに4つの地域に分け、そこに造られた古墳と出土した様々な資料を紹介しながら、伊賀の地域がヤマト王権にとって東国支配の玄関口であり、また護りの地でもあったことを首長墓などから出土した埴輪や武器・武具などの資料から紹介しました。

地域展示での試み① “ポップ” でアピール

地域展示では、展示資料を古墳ごとにまとめ、解説は、「古墳名」「所在地」「墳形・規模」「時代」を項目で紹介した後、その特徴を文章で簡潔にまとめました。しかし、解説文はどうしてもお伝えしたいことが多くなり、ポイントがぼやけてしまう恐れがありましたので、特にご紹介したい事柄を“ポップ”で強調しました。

来館者のアンケートからは、見学のポイントや見どころが分かったなどの評価をいただきました。



琴平山古墳出土資料のポップと黒い展示台

地域展示での試み② 試みの黒

MieMuは展示室の壁も展示ケースも資料を陳列する台も白色を基調としています。また、文字が多く、地名や専門用語にルビをつけた解説パネルを掲示しましたので、読みやすさを考慮し展示室の照度

もとても明るく設定しました。しかし、そこに展示する資料は埴輪や須恵器など、どちらかという和白っぽい資料でしたので、展示環境の白さや明るさが、かえって肝心の展示資料の存在を弱めてしまう恐れがありました。

そこで今回は、黒い布を用いて展示台を黒色にして展示を試みました。黒色を用いたことで、展示にアクセントができ、展示資料を集中してご覧いただけたのではないかと思います。

アンケートでは展示台が黒いことに関する評価はいただけませんでしたが、これからも展示資料のみやすさについては、様々な角度から考えていく必要があると再確認しました。

宝塚1号墳出土の船形埴輪のレプリカも

「発掘された日本列島2025」を構成する特集展示では、「埴輪列の世界」と題したパネル展示で松阪市の宝塚1号墳出土の船形埴輪を紹介しました。加えて松阪市文化財センターはにわ館と連携して、この船形埴輪のレプリカの展示を行いました。来場者からは、「その大きさに驚いた」や「これほど細かな作りだったとは知らなかった」などの声をいただきました。また、アンケートでも印象に残った展示に船形埴輪とお答えいただく方が多くいらっしゃいました。レプリカではありましたが、三重県で最も有名な国宝の埴輪は、考古資料をより身近なものに近づけてくれたのではないのでしょうか。



宝塚1号墳出土の船形埴輪のレプリカ展示風景

宇河 雅之

古代史・民俗(民具)

学生時代は律令期の葬送儀礼について調べていました。特に持統太政天皇の火葬採用の理由とその背景は、現在も研究テーマとしています。



2026年新春展示「三重のウマたち」 10年目のこぼれ話

今年も新春展示の季節がやってきました！

令和7(2025)年12月20日(土)から令和8(2026)年1月18日(日)まで、2026年新春展示「三重のウマたち」を開催中です。すっかり毎年恒例となったこの展示、準備が本格化してくると「ああ今年も残り僅かになってきたんだなあ…」と年の暮れを実感します。なぜか回数を重ねるごとに冬が訪れる体感スピードが上がっていくのですが、大人のみなさんはきっと共感していただけますよね。

さて、今回は新春展示が生まれるまでの秘蔵話と、^{うま}午年の見どころをご紹介します。

はじまりはイベントからだった！？

時を遡ること10年前、平成28(2016)年のお正月に初めての新春イベント「MieMuでサルをさがそう！」(平成28年1月5日(火)～1月31日(日))を開催しました。実は、最初の新春イベントは、現在は関連事業として開催している「MieMuで〇〇をさがそう！」シリーズから始まったのです。

この新春イベントを企画した当時、私たち2人はこども体験展示室の運営を担当していました。MieMuはまだ開館して2年目で、いろいろな事を試行錯誤していた時期でした。こども体験展示室は開館以来子どもたちに大人気の展示室ですが、もう少し子どもたちに新しい視点を提供したいという気持ちも芽生えていた頃です。こども体験展示室を出発点として、常設の基本展示室や、三重の実物図鑑などMieMu全体を楽しんでもらえるようなことができないかと考え、挑戦したのが「MieMuでサルをさがそう！」でした。

宝探しのようにカードを持って館内を探検し、最後には干支がモチーフになった缶バッジをプ



歴代缶バッジ

ゼントという形式は、年齢に関わらず好評でした。結局「せっかくやるなら展示もやろう」となり、コロナ禍にもめげず毎年欠かさず開催することができました。最近では「十二支全部の缶バッジを集めたい！」とありがたい声もいただき、私たちも励みになっています。

「三重のウマたち」はここに注目！

新春展示では、三重の自然と歴史・文化を総合的に紹介する博物館として、展示する収蔵資料のバリエーションが豊かになるよう心掛けています。時には苦戦する年もあるのですが、今回の「三重のウマたち」は、初めて展示する資料もあります。その中でも一際目を引くのがウマ全身骨格標本です。家畜であるウシやウマは、取り扱いにもルールがあり、標本として収集するのが意外と難しいのですが、数年前に幸運にもMieMuへ来てくれた資料です。写真は頭骨ですが、会場ではぜひ立派な大きな体をご覧ください。



ウマ頭骨

中村 千恵 博物館学

特に博物館を活用した教育活動に興味があります。博物館を利用することで、利用者の人生にどのような影響を与えるのか、長期的な視点で考えたいと思っています。



稲垣 玲弥 博物館学

子どもを対象とした教育普及を専門にしています。子どもたちが博物館でどんなものに興味をもつかということに関心があります。



MieMu からのお知らせ

利用案内

■ 利用時間

9時～17時
(基本展示室、企画展示室の最終入場は、閉館30分前まで)

■ 休館日

月曜日(祝日の場合は翌平日)、
年末年始(12/29～1/3)、
その他別途定める日

■ 観覧料

基本展示室 一般 520円(410円) 学生 310円(240円)
高校生以下無料 ※()内は団体料金

企画展示 展覧会ごとに別途料金を定めます。

詳しくは各展覧会のお知らせをご覧ください。

年間パスポート 一般 1,670円 学生 1,040円

※障がいをお持ちの方のご見学についても、お気軽に館内スタッフへご相談ください。
お電話での事前のご相談も承ります。



MieMu | みえむ | 三重県総合博物館

三重県津市一身田上津部田3060(三重県総合文化センター向かい) 〒514-0061
tel 059-228-2283(代表) fax 059-229-8310 mail MieMu@pref.mie.lg.jp
HP <https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/>
X (旧Twitter) @mie_pref_museum
facebook @mie.pref.museum
Instagram miemu2014
YouTube <https://www.youtube.com/@MieMu>



三重県総合文化センター



休館期間 令和8年1月4日(日)～4月30日(木)

屋上防水工事等大規模修繕工事に伴う
長期休館のお知らせ

三重県総合文化センターは、1994年の開館から31年が経過し、各所老朽化のための屋上防水工事をはじめ、皆様にこれからも安心してお楽しみいただくための大規模修繕工事を行います。それに伴い、以下のとおり休館いたします。工事中はメインエントランスや広場、一部駐車場の閉鎖により、県立図書館を除く館内の立ち入りが出来ません。

ご利用・ご来館の皆様には大変ご不便をおかけしますが、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

URL 休館中の各館のサービス、
駐車場、バス等についてはこちら

<https://www.center-mie.or.jp/news/article/20251031.html>



問い合わせ先

三重県総合文化センター 総合案内
津市一身田上津部田1234
Tel 059-233-1111(9時から17時まで)
年末年始、月曜日(祝日の場合は翌平日)は休業
三重県総合文化センターは、文化会館・生涯学習センター・男女共同参画センター「フレンテみえ」・県立図書館・放送大学三重学習センターから構成される複合施設です。

三重県立図書館

工事中、県立図書館は利用時間を17時までに変更し開館

県立図書館がある生涯学習センター棟では、令和8年1月4日から4月30日までの間、屋上防水工事を実施します。

これに伴い、図書館の利用時間等を変更します。みなさまにはご不便をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

工事期間 令和8年1月4日(日)～4月30日(木)

開館時間 9時～19時 → 9時～17時

図書館への入館経路

立体駐車場横の階段、または立体駐車場エレベーターを使用して入館してください。総合文化センター正面のエスカレーターのあるメインエントランスは使用できません。

使用可能駐車場

立体駐車場、B-4～B-7の駐車場が使用できます。

図書の出貸冊数

本の貸出上限が緩和されます。
1人5冊 → 1人10冊

返却ポスト

図書館入口の返却ポストは利用できます。ただし、夜間は照明が19時で消灯するため、ご利用は19時までにお願います。

2階文学コーナー

安全確保のため、期間中は閉鎖します。

問い合わせ先

三重県津市一身田上津部田1234
Tel 059-233-1180 Fax 059-233-1190
開館時間:9時～17時

休館日:月曜日(祝日にあたる日は開館、翌平日閉館)、月末(土日祝日の場合は、その直前の平日)、
年末年始、特別整理期間



三重県立美術館

ポップ・アート 時代を変えた4人

ウォーホル、リキテンスタイン、
ラウシェンバーク、ジョーンズの
作品を中心にポップ・アートの
魅力をご紹介します。



期間 12月28日(日)まで

ライシテからみるフランス美術 — 信仰の光と理性の光

「ライシテ」とは、国家が宗教から自律し、信教の自由を保障すること。近代フランスにおいて、しばしば論争を引き起こした脱宗教化の過程は、美術表現の展開にも大きな影響を及ぼしました。本展では、ロダンやユトリロ、シャガールらの油彩画や彫刻、版画等を展示し、新しい視点<ライシテ>からフランス近代美術に光を当てます。



モーリス・ドニ《聖母月》1907年
ヤマザキマザック美術館

期間 令和8年1月17日(土)～3月22日(日)まで

会場 三重県立美術館 企画展示室

観覧料 一般1,000円 学生800円
高校生以下無料

問い合わせ先

三重県津市大谷町11
Tel 059-227-2100(代表) Fax 059-223-0570
開館時間:9時30分～17時
(入館は16時30分まで)

休館日:月曜日
(祝日にあたる日は開館、
翌平日閉館)、年末年始



三重県環境生活部 文化振興課 歴史公文書班

三重県では、歴史資料として重要な公文書等を“特定歴史公文書等”として三重県総合博物館で保存しており、利用申請手続きにより、総合博物館内の資料閲覧室でご利用いただくことができます。また、資料閲覧室では、定期的に特定歴史公文書等の企画展示も行っています。詳しくはHPをご覧ください。

URL <https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/000236866.htm> 問い合わせ先 三重県環境生活部 文化振興課 歴史公文書班
三重県津市一身田上津部田3060 総合博物館3階 Tel 059-253-3690 Fax 059-229-8310



三重県総合博物館情報誌「みえんしす」

「三重の」を、生物に与えられる世界共通の名前である「学名」であらわすと「miensis=みえんしす」となります。この情報誌「みえんしす」は、博物館でもよく使われる学名にちなんであられました。生物だけでなく、博物館が発信する様々な「三重の」をこめて。

発行日:2025年12月15日(禁・無断転載)
企画・編集・発行:三重県総合博物館
印刷:有限会社ミフジ印刷